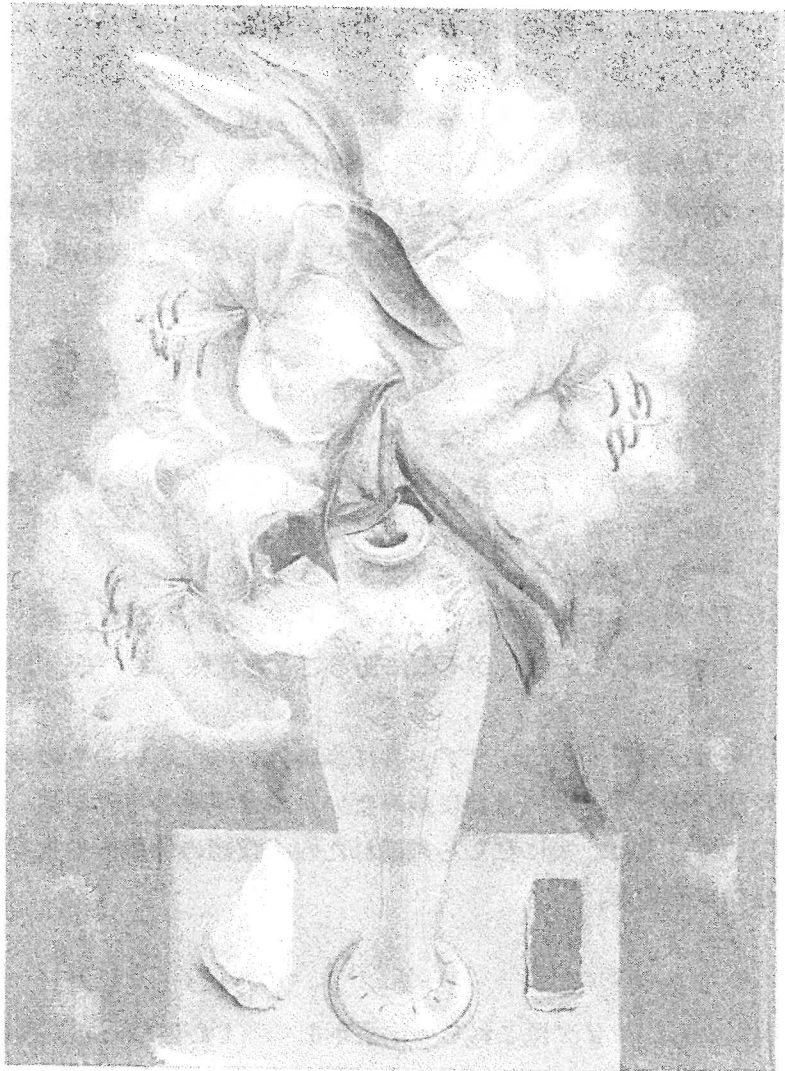


2004. 5
霊性センターニュース
188号



「最も積極的な行為：沈黙から」

カルメル会 中川 博道

世界が、ジャムのように混乱し、暴力の応酬によって傷口を開いていくかに見えるこのとき、国連事務総長であったダグ・ハマーショルドの霊的遺産のことを思い巡らす。ハマーショルドは、第二次世界大戦後の東西緊張が高まる中、国際政治を導いていくための原点として、国連事務所の中に瞑想の部屋を設け、その部屋を次のように銘打ったといわれる。

「外界の感覚の静寂さと、内面の感覚の平穏さのために捧げられ、
そこでは、部屋の扉は思索と祈りの無限の国に開かれうる。」(日記「道しるべ」より)

時々、私たちの日常生活においても、何かをすることよりもむしろ、何もしないことが解決のための決定的な糸口になることを経験する。すなわち、次から次へと解決のために手を打っていくことよりも、一切の外面的行為から離れて、何もしないこと、むしろ内面の平穏さを保ちながら、静かに相手の存在に聴くことから出発しなすことだ。

「平和でなくなったとき あなた方はしゃべる。
心の孤独に耐えられなくなったとき
あなた方は唇に生き 音は気晴らしと気休めになる。
おしゃべりの多くの中で
思考（かんがえ）は半ば殺される。」

「沈黙が常にそばにあるということは、とりもなおさず、
またゆるしと愛とがそばにあることを意味している。」(カール・ジブラン「預言者」より)

皐月、教会が聖母マリアと共に歩む月。内なるいのちのみことばを沈黙のうちに思い巡らすマリアと共に歩みたい。地球規模の事件を思い巡らし、責任を生きていくことは、実に私たちの隠れた内的瞑想の部屋への入り口にたたずむことから始まるのだ。

「しかし、マリアはこれらの出来事をすべて心に納めて、思い巡らしていた。」
(ルカ 2.19)

カルメル会の企画案内



ケルン教区のマイスナー枢機卿の

山口女子カルメル会修道院における説教

2004年3月25日午前10時

司教閣下、親愛なる聖職者の皆様、親愛なる修道女の皆様、

山口女子カルメル会の創立25周年をお祝いいたしますのに、典礼暦の中で本日の神のお告げの祭日ほど、ふさわしい日はありません。この祝祭の奥義は、非常に大切な内容を持つもので、教会は毎日三回、「アンジェルス（お告げの祈り）」の際に、その意義を思い起こします。

カルメル会は、主のみ使いが訪れ、マリアが主の母になるという、信じられないような知らせをもたらすナザレの家を、全教会の中で表しています。

神のなされた最大の奇跡は、世界史の舞台の中心ではなく、脇の方で、静かに人に気づかれぬ場所で、つまりナザレで起こります。ある人はこう尋ねます。「ナザレから良いものが出るのだろうか？」（ヨハネ 1:46）と。私たちが知っていますように、ナザレからは良いものだけではなく、良い人が出たのです。

天使が訪れた時に、もしマリアが不在で、どこかに出かけていたとしたらどうなっていたでしょうか。そうであれば、み言葉は肉にならず、世界は救われなかったことでしょう。今日においても、神のみ使いは神のみ心を人々に伝えようとしているのですが、多くの場合、その目的を達成できません。というのは人間がそこにいないからです。私たちは出かけてしまっているのです。世の中に、世間の中にいるからです。

ここ山口女子カルメル会修道院は、世のために、教会の中で欠かすことのできない場所を持っています。ここには、司教館とか司祭館とかカトリック団体の建物とは異なり、常に誰かがいます。ですからシスターたちは、クラウドスーラ（禁域）を愛されるのです。それは、ナザレの部屋の聖なる場所です。主のみ使いは、聖母マリアに続く人々、すなわちみ言葉を受け入れる用意のある人々に、神のみ心を伝えるからです。ですから、この場所は、日本中の教会にとって、また世界中の教会にとって、聖なる尊い場所なのです。

山口の女子カルメル会は、ナザレの家の分室です。神の命じられることに対して、沈黙の内に開かれた場所なのです。身も心も神にゆだね、そのみ前で燃えるような心をもって礼拝する場所です。この25年間、あなた方は常に、全教会にとって必要とされる場所にいてくださいました。それに対して私たちは今日、心からお礼を申し上げますねばなりません。

山口女子カルメル会との関係は、東京とケルンの両教区の間には結ばれた友好関係に比べますと、まだ半分の年月です。しかしこのような観想修道会が教会の現場に生まれることは、一つの町、一つの国、一つの民族にとって、神の愛の偉大なしるしを意味します。それが大切なのです。

わたしたちの住むケルンの町には、もう400年以上もの昔からカルメル会があります。カルメル会のシスター方によって、私たちがどれほどのお陰をこうむっているのか、それは神のみが知りたもうことです。この家は、神のお告げをもたらす神のみ使

いに対して常に開かれており、シスターたちは、そのことを教えてくださるのです。

神のお告げを教えてくださいシスター方の一人に、私たちと同年輩の、聖テレジア・ベネディクタ・ア・クルーチェ姉妹がおります。彼女の入会前の名前は、エーディット・シュタインと言います。彼女はカルメル会の修道院で「十字架の学問」という本を著しました。これはみ使いがもたらした神のお告げを今日の時代に合わせて解説したものです。十字架というのは世界のすべてのマイナスのしるしを垂直に交差した線で表します。したがって十字架というのは、神のみ業によって世界のマイナスがプラスになったものだと、そう解説してくださっているのです。

ですから、カルメル会のシスターたちは常にプラス人間です。十字架は、絶望が希望に変わり、死が生に、損失が利益に、すなわちマイナスがプラスに変わる唯一の場です。それについてエーディット・シュタインは、本を書いただけではありません。それを自らの生きざまの中で、アウシュヴィッツのガス室での殉教を通して、証したのです。

教皇様は、エーディット・シュタインをヨーロッパの守護聖人に加えました。したがって一つの大陸全体が、修道院のクラウスーラにいた一人の観想修道女によって生きることになったのです。驚くべき神のみ業は、隠れたところで起こるのです。世間の皆が見ているところでは起こりません。山口女子カルメル会は、この町の脚光を浴びる所ではなく、外からは見えない、隠れた所にあります。ナザレのマリア様の家のように。ところがそこで最も偉大な奇跡が起こり、世界の歴史を根底から変えてしまったのです。この出来事は世界をポジティブなものに変え、私たち人間の歴史はこの時から新たな歩みを始めたのです。今、私たちはキリスト生誕後2004年と言っております。

キリスト一度だけ人間になりました。それは弟子たちの中で繰り返し人間になろうとされたからです。そのためにあなた方は、ここカルメル会にいらっしゃるのです。キリストはただ一つの命を生きられました。それは人間としてもさらに生きようとされたからです。その望みを実現するために、あなた方はカルメル会にいらっしゃるのです。

もしキリストがわずか33年という人間として地上の生活を神的なものとしてしまったならば、それはほんの短期間、人間として生活されたということであって、それでは神様がまったく無駄なことをされたということになってしまうでしょう。そうではなくてキリストご自身は、深く愛したにも拘らず、厳しい試練を受けられた人間としての生活を、さらに生きてゆこうとされているのです。

カルメル会の皆様の一一人ひとり、キリストが再び人間になれるための新しい機会となるのです。ですから、神が聖霊によっておとめマリアからイエス・キリストにおいて人間になられたことをお祝いする今日の祝日は、全教会における、あなた方の、人目につかない隠された創立の日でもあるのです。

あなた方が毎日三回アンジェルスを唱えられる時、このことをいつも思い起こしてください。あなた方は、その際、あなた方の召命と恩寵を祈ってください。ナザレが滅亡してはなりません。そうならないように、山口にカルメル会があるのです。アーメン。

ヨアキム・マイスナー枢機卿
ケルン大司教

毛 聖
カルメル修道会 ヲ 聖テレジア修道院 (黙想)

2004年4月～2005年3月までの黙想会予定表

1. 聖書深読 (毎回土曜日 夕食～日曜日 16時)

4月 3日～ 4日・・・九里彰師 5月 8日～ 9日・・・奥村一郎師 6月26日～27日・・・九里彰師	了	9月4日～ 5日・・・奥村一郎師 11月27日～28日・・・九里彰師 '05/3月19日～20日・・・奥村一郎師
---	---	--

2. 奉獻生活者のための黙想会
 - ・ 7月27日(火) 16時 ～8月 5日(木) 朝・・・渡辺幹夫師
 - ・ 8月11日(水) 16時 ～8月20日(金) 朝・・・チプリアノ師
 - ・ 12月27日(月) 16時 ～1月5日(水) 朝・・・九里彰師

3. カルメルの聖人を見つめ靈性を深める
(毎回水曜日 10時～16時)・・・九里彰師

A・・・大聖テレジア		B・・・十字架の聖ヨハネ
(1) 4月21日	了	(1) 5月26日
(2) 6月 2日		(2) 7月 7日
(3) 9月29日		(3) 11月24日
(4) 12月1日		(4) 1月19日
(5) 2月16日		(5) 3月 2日

4. 青年男女黙想会・・・九里彰師・神学生
 - (1) 5月22日(土) 16時～23日(日) 16時
 - (2) 11月6日(土) 16時～7日(日) 16時

5. 召命黙想会(男女)・・・九里彰師・原修士
 - 10月1日(金) 16時～3日(日) 16時

6. 大祭日のミサにあずかるために
 チェックイン午後3時から。(講話なし) チェックアウト午前10時まで
 - (1) 復活祭 4月10日(土) 夕食なし～11日(日) 朝食あり
 - (2) クリスマス 12月24日(金) 夕食なし～25日(土) 朝食あり
 - (3) 復活祭 '05/ 3月26日(土) 夕食～27日(日) 朝食
 - (4) 聖週間を黙想する '05/ 3月24日(木) 夕食～27日(日) 朝食

7. ユース リトリート《カルメルの泉》 青年男女 大瀬高司師

(1) 5月1日(土) 16時～2日(日) 14時

* 年間に何回か企画する予定ですので、その都度お知らせします。

8. 特別黙想会

最初の日の夕食をすませてからお越しください。どなたでも参加できます。

① 6月 7日(月) 20時～ 9日(水) 15時 新井延和師

② 10月25日(月) 20時～27日(水) 15時 新井延和師

③ 5月28日(金) 20時～30日(日) 15時

“わたしは神を観たい。”カルメルの霊性 Sr. 伊従信子

④ 11月19日(金) 20時～21日(日) 15時

“テレーズと共に祈る” Sr. 伊従信子

9. 待降節黙想会 チブリアノ師

12月3日(金) 夕食 ～ 5日(日) 15時



* 電話でのお問い合わせは 午前9時～午後4時45分までをお願いします。

また、お申し込みは電話でもお受けいたしますが、間違いを避け、時間も問いませんのでなるべくFAX・はがき・Eメールをお願いします。(お返事は致します)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)担当 br 原

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

Eメール mokusou@carmel-monastery.jp

[カルメルの靈性研究クラス]

* 十字架の聖ヨハネ：「カルメル山登攀」

4月28日、6月9日、6月23日、7月14日
(4月28日は、第3部第18章～第20章を読みます。)

* アヴィラの聖テレジア：「自叙伝」

5月12日、6月16日、6月30日、7月21日
(5月12日は、第28章を読みます。)

どちらも水曜日、夜7：00より、上野毛教会信徒会館2階26号室
でおこなわれます。

[祈りの集い]

4月23日、5月28日、6月25日、7月23日、10月29日、
11月26日、12月17日

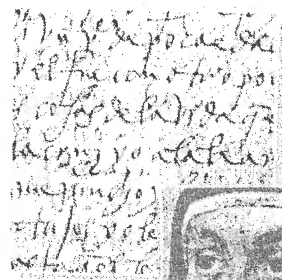
毎月一回金曜日の夜7：00より、上野毛聖テレジア修道院（黙想）
小聖堂にて。都合の悪い場合は上野毛教会信徒会館ホールでおこなわ
れます。何の準備も要りません。

7：00～8：00 み言葉と念祷

8：00～8：30 分かち合い（茶話会）

[靈性研究クラス][祈りの集い]、いずれも申し込みは不要です。不定期
の参加も可能ですが、「カルメルの靈性研究クラス」の方は、なるべく
継続して出席されることが望まれます。

担当：九里^{くのり} 彰神父



2004年

黙 想 会 案 内 (宇治カルメル会)

【聖書深読黙想会 (土曜日午後5時集合/日曜日午後4時解散)

1月24日(土)~25日(日)	新井延和神父	了
2月28日(土)~29日(日)	福田正範神父	了
4月24日(土)~25日(日)	中川博道神父	了
5月29日(土)~30日(日)	福田正範神父	
6月26日(土)~27日(日)	奥村一郎神父	
7月24日(土)~25日(日)	福田正範神父	
9月 4日(土)~5日(日)	新井延和神父	
10月30日(土)~31日(日)	中川博道神父	
11月20日(土)~21日(日)	九里 彰神父	
12月11日(土)~12日(日)	奥村一郎神父	

【青年のための黙想】

・男女性のため	4月18日(日)午前10時~午後5時	カルメル会士、カルメル宣教会
	10月17日(日)午前10時~午後5時	カルメル会士、カルメル宣教会

【一般のための黙想】

・水曜の黙想	(午前10時から午後4時まで)	
1月 21日(水)	受肉の神秘	新井延和神父 了
2月11日(水)	イエスの祈り	アロイジオ神父 了
3月17日(水)	聖ヨセフ	福田正範神父 了
4月14日(水)	復活	新井延和神父 了
5月19日(水)	マリア様と共に	奥村一郎神父
6月16日(水)	聖 霊	長岡幸一神父
7月21日(水)	カルメルの祈り	新井延和神父
9月15日(水)	十字架の神秘	福田正範神父
10月13日(水)	アビラの聖テレジア	シスターベアトリス
11月17日(水)	諸聖人の通功	長岡幸一神父
12月15日(水)	十字架の聖ヨハネ	奥村一郎神父

・四旬節の黙想 3月6日(土)午後5時~7日(日)午後4時 福田正範神父 了

・待降節の黙想 12月4日(土)午後5時~5日(日)午後4時 中川博道神父

・聖テレーズの黙想 伊従信子氏
9月30日(木)午後5時~10月1日(金)午後4時

【奉献生活者の黙想】 (午後5時集合/午前9時解散)

7月11日(日)~ 7月20日(火)	新井延和神父
8月 2日(月)~ 8月11日(水)	中川博道神父
8月16日(月)~ 8月25日(水)	福田正範神父
10月18日(月)~10月27日(水)	福田正範神父

その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。

申し込み方法: -

電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX あるいはハガキでお名前と連絡先を御記入の上、お申し込み下さい。なお、お電話でお申し込みの場合、受付が休みになっている時はすぐに返事できないことがあります。その際は、おそれいりますが、後日、改めてお問い合わせさせていただきますよう、お願い申し上げます。

宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)
〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
Tel 0774-32-7016 / Fax 32-7457

「立ちどまって、ひといになって、聴いてみよう！」

～都会の中の一日静修～ (2004)

この会は、現代の忙しい社会の中であって、また都会の中であって、神様との静かなひとときを過ごすために企画しました。イエス様は、「わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいる」(マタイ 28:20)といわれました。共にいるイエス様とのひとときを、都会の真中で過ごしてみたいはいかがでしょうか。若者の召命、仕事の刷新、家庭生活の充実、老後のプランなどについてイエス様の言葉からヒントをいただきましょう。カルメル・ファミリーがお手伝いします。

第1回	1月12日(月)	「聖ルカに聞く(1)」	松田浩一 神父	了
第2回	2月11日(水)	「カルメル諸聖人の道」	大瀬高司 神父	了
第3回	3月23日(火)	「聖ルカに聞く(2)」	松田浩一 神父	了
第4回	4月29日(木)	「わたしたちの召命」	中川博道 神父	了
第5回	5月25日(火)	「聖ルカに聞く(3)」	松田浩一 神父	
第6回	6月29日(火)	「恵みの梅雨」	松田浩一 神父	
第7回	7月19日(月)	「神の国への道標」	松田浩一 神父	
第8回	9月28日(火)	「聖ルカに聞く(4)」	松田浩一 神父	
第9回	10月11日(月)	「神の家族」	中川博道 神父	
第10回	11月23日(火)	「わたしたちの使命」	九里 彰 神父	

*時間 いずれも AM10:00~PM4:00

*場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線、日比野駅下車徒歩5分)
(駐車場は利用できません。)

*費用 1,000円

*持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、昼食の弁当

*定員 約15名

プログラム	10:00~	祈り
	10:45~	講話【1】
	12:00~12:45	昼食
	12:45~	ゆるしの秘跡または短い面接
	13:30~	講話【2】
	14:45~	ミサ
	15:30~	茶話会

・また、空いている時間にゆるしの秘跡または短い面接を受けることができます。

申込みは、下記の住所へハガキかFAXで、氏名・住所・TELを記載の上、開催日の3日前まで必着のこと。尚、日比野教会の葬式などある場合は中止となりますので、ご了承ください。

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17

カルメル会日比野修道院 一日静修係(担当 松田浩一 神父)

FAX 052【671】1825、(お問合せ) TEL 052【671】1003

聖書深読センターのご案内

1. 聖書深読黙想会

① 東京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。（p.3）

② 宇治・・・宇治 〃 (p.6)

③ 名古屋

第一回	4/17（土）	日比野カトリック教会	中川博道神父 了
第二回	5/22（土）～5/23	宇治カルメル黙想の家	奥村一郎神父
第三回	10/2（土）～10/3	宇治カルメル黙想の家	奥村一郎神父
第四回	11/6（土）	日比野カトリック教会	中川博道神父

* 毎回、事前に名古屋教区ニュースでお知らせします。

* 原則として、定員21名とし、申込はファックスまたは葉書でお願いします。

* コースは、深読法を集中的に行なう1日コースと、全工程を行なう一泊二日コースがあります。

* 対象は、信徒、未信徒の別を問いません。キリストの教えに関心のある方なら、どなたで構いません。

連絡先：〒465-0058 愛知県名古屋市名東区貴船3-2115 小林 厚

Tel/Fax：052-701-3685

④ 横浜

◎ 1泊2日 コース

月 日	場 所	指導司祭
3月16日（火）～17日（水）	聖母の園（横浜・戸塚）	大瀬高司師 了
5月19日（水）～20日（木）	鎌倉修道院（鎌倉・十二所）	九里 彰師
9月15日（水）～16日（木）	鎌倉修道院（鎌倉・十二所）	中川博道師
11月9日（火）～10日（水）	聖母の園（横浜・戸塚）	奥村一郎師

◎ 1日 コース

1月22日（木）	ザビエル・センター（横浜・滝之上）	九里 彰師 了
7月14日（水）	〃	大瀬高司師

連絡責任者 密本昌俊 TEL・FAX 045(621)5838

2. 通信深読について

通信深読は現在何箇所かで行なわれているようです。そのうちの2箇所が、新たに参加可能なので紹介します。

朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5の用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」、そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 17,900円（4月、7月、10月、1月に入れる）

継続 15,950円

講師：九里 彰師（奇数月） 新井延和（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル
私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座部
電話 03-3344-2527（直通）

*講師の変更：奥村一郎神父（奇数月）を九里神父が担当することになりました。

3. ミニ深読

グループで、2, 3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光または、Sr. ベアトリスが指導に行くことも可能です。

問い合わせは、「聖書深読センター」事務局 Sr. ベアトリスまでお願いします。

◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問合せ下さい。

所長 : 奥村一郎 神父

事務局長 : 新井延和 神父

連絡先 : シスター ベアトリス

〒611-0002

京都府宇治市木幡御蔵山39-12 カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

tel: 0774-32-7016

fax: 0774-38-2543

e-mail: carmis@mbx.kyoto-inet.or.jp

2004年度 東京カルメル在俗者会 黙想会

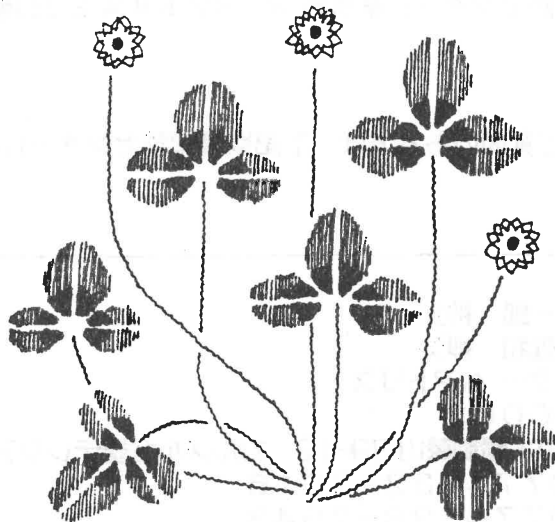
場所：カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想）

		ご指導
日程：6/17（木）夕食	～ 6/20（日）	チブリアノ神父様
9/7（火）夕食	～ 9/10（金）	アロイジオ "
10/14（木）夕食	～ 10/17（日）	中川 博道 "
11/9（火）夕食	～ 11/12（金）	九里 彰 "

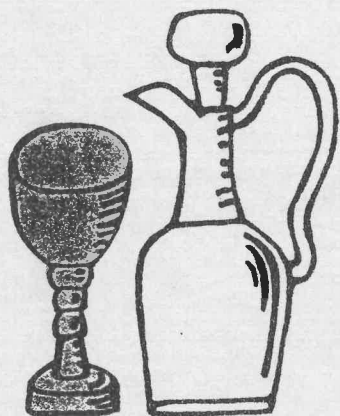
☆ 空きがある場合には、一般の方でも参加できます。

☆ お申し込み、お問い合わせは下記まで。

TEL・FAX 03-3892-1378（阿部 昌子）



心の泉



カルメル会の歴史的流れに見る靈性

マリア・パウロ大瀬高司神父

日本でカルメル会と言えば、16世紀の宗教改革運動の最中、スペインのアヴィラにおいてイエスのテレジアが改革派修道院を創立していったことに端を発する跣足カルメル修道会のことをさす。裸足を意味する跣足は、原初の精神に戻ることを目指した改革派を標榜する言葉であるが、跣足カルメルの対称的表現である履足という言葉を用いて元のカルメルを表現するのは本来的ではない。カルメル修道会には、時代と場所を異にしながらも幾多の改革運動があり、カルメルの修道家族全体の歴史の中で、イエスのテレジアも十字架のヨハネも、数多存在してきた改革者たちの一人とみなされる。日本では、跣足でないカルメル会員を目にすることはできないが、ヨーロッパをはじめ、南米やアフリカ、アジアではインドネシアに多くの跣足でないカルメル会員が存在し、また活躍している。O.C.D. (Ordo Carmelitarum Discalceatorum : 修道会—カルメル—跣足の) という表記に対して、彼らは自分たちのことを O.Carm. (Ordo Carmelitarum) と自己表記することを常とする。敢えて、自分たちの特徴を表現するならば Osservantes (遵守派) とする。

跣足カルメル修道会内に目を向けると、会は、男子、女子、そして在俗の会員たちによって一つの修道家族を形成しているとみなされる。第一会(男子)、第二会(女子)、第三会(在俗者)という従来教会位階に基づいた呼び方も、現在では用いられない。否、跣足カルメル会に限って言うならば、最初にそのカリズマを実現したのは女子であり、歴史的啓示の観点で見ると、第一会は女子が相当する会であろう(教会法上有り得ないのではあるが)。一つのカリズマを、それぞれの場、召しだしに応じて生きていくという意味で、カルメルの歴代の諸聖人と自分たちは、別の生き方をしているのではないと自覚することは傲慢とは言えない。むしろ、そういった諸聖人の存在を前にして縮み上がるほどの緊張を覚えるとしたら、どこかズレている可能性がある。在俗者会員には在俗者会員の使命や特異性があるはずである。

P.T. ロアバック著『カリットへの旅』が女子カルメルの姉妹方の労作により昨年刊行されたことは、自分の所属している修道家族の歴史について、独自に調べられること、また、会員間で共通の資料を持つことを可能とした点において、大変意義深い。ただ、『カリットへの旅』は、日本宣教との関連では書かれていないこと、また、途中から、跣足でないカルメル会への言及がないことなど、その前書きで触れられている通り、時代や担当者による制限を有している。

既に知られてきたように、カルメル会は、パレスチナのカルメル山で発足した。彼らの多くは、十字軍や巡礼によって聖地にやって来たヨーロッパ人で、不都合がなければ、彼の地でそのままの営みを続けていたことだろう。しかし、彼らは、イスラムの勢力によって、ある者は殉教し、多くはヨーロッパ帰還を余儀なくされる。失いたくない自分たちの聖地を追われ、劣勢が明らかなヨーロッパに戻る。しかし、彼らはそこでスカプラリオの啓示を得、ヨーロッパにおける地位を獲得する。喪失から始まった人の計画によらぬ発展。これは、エルサレムを追われて世界中に広まったキリスト教全体の歴史を彷彿とさせる。神のご計画の不思議さ。

イエスのテレジアの改革修道院創立の動きは、改革派男子をも産み、逐には元のカルメル会とは別個の会として独立する。跣足カルメル会は1875年にピオIX世教皇によって一致させられるまで、1580年に起こったスペインの聖ヨゼフ修団と1584年にスペインから創立されたイタリアを中心とした聖エリア修団に分かれていた。どちらも修道会としては後発も後発である。パレスチナからヨーロッパに帰還した時のように、或いはそれ以上に、跣足会員のヨーロッパにおける劣勢は明らかであった。しかし、この劣勢状態が、時の大航海・新大陸発見という新潮流に乗る動機となる。1622年に創設されたヴァチカンの布教聖省（現・福音宣教省）は、聖エリア修団に対して、中東・東洋方面への宣教命令を出す。この使命を果たす中で聖地・カルメル山にも再び拠点を持つことになる（1631年）。現在、カルメル山に元々の遵守派ではなく跣足のカルメル会が存在するのはそのためである。総長館の資料によれば、この時代、日本への宣教命令を受けていた跣足会士が幾人か存在していた。イエスのステファノ（1609ナポリ生）1641ゴア着、1673ゴアにて帰天。茨の冠のディオニジオ（1605ベルギー生）ゴア到着不明、1666イスファハン（イラン）にて帰天。聖テレジアのヤコブ（1594フランス生）1637ゴア着、1664ローマにて帰天。11月29日に祝う福者ディオニジオとレデントは、1638年、ゴアからスマトラに赴き殉教。彼らは、資料からすると、少なくとも聖テレジアのヤコブとゴアで生活を共にしていた期間がある。東へ東への伸展の中で、福者たちは殉教した。跣足会士たちの指向していた先の中に、17世紀の日本も含まれていた。福者ディオニジオとレデントは、「昔、南方で殉教した人たち」なのではなくて、実は、私たちとかなり関連のある人々なのである。

出来たら失いたくないものを喪失し、劣勢が次の展開、後の発展のキッカケになっていった跣足カルメル会の歴史の流れは、剥奪と超越性という私たちの霊性に合致している。跣足でないカルメル会が跣足カルメル会に比べて分布している地域が狭いのは、逆に、そうせざるを得ない駆り立てられる窮

した事情がなかったからである。跣足内においても、聖ヨゼフ修団と聖エリ
ア修団が互いに正統性を主張しあって、相手を認めなければ、今日の発展は
ないわけである。こういう歴史的流れを知った上で、自分、また自分の所属
する現代の日本地方教会を見つめてみると、先の見通しは明るくはないが、
決してそれだけではないことが分かる。

(次回は、今日に至るカルメル日本宣教の根)

カルメル会の出版物のご案内

雑誌「カルメル」No.312 (季刊)

2004年春号 「今日の靈性」

聖体=キリストの過越の神秘(59)・・・高橋重幸

十字架の聖ヨハネのとらえた「自由と解放」(2)・・・九里 彰

イエズス 私の最愛のお方 思い出してください(10)・・・P.・アロイジオ

幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師(4)・・・伊従信子

私の祈り一気が散る中でどう祈るか・・・J・マッカーフリー

三位一体のエリザベット(5)・・・伊従信子

音を求め続けて・・・森みさ

出会いー修道生活きのうきょうー(6)・・・奥村一郎

年5冊(春夏秋冬号+特集号)会員頒布価格：3000円(送料込み)

郵便振替：00190-4-195457

跣足カルメル修道会

(どなたでもご購入できます。電話でのご連絡は、事務担当竹田：

TEL03(5706)8356まで。)

「カリットへの旅ーカルメル会の歴史」

P・T・ロアバック著、女子カルメル会訳、男子カルメル会監修、

2003年、サンパウロ、定価(本体2500円+税)。

「愛するための自由ー十字架の聖ヨハネ入門ー」

N・カミン著。山口女子カルメル会訳、2000年、ドン・ボスコ

社、定価(本体1500円+税)。

断想 (191)

エリ エリ レマ サバクニタ

(わが神 わが神 なぜわたしを見棄てられたのか)

マタイ 27, 46

ちよつと 神さま
ちよつと エスさま
ちよつと マリアさま なんて やめてほしい

いっそ
バーンと 神さま
バーンと イエスさま
バーンと マリアさま でなきьяアネ?

だって ほんものは ひとり
だけでしょ?!

あっちにも こっちにも
ちよつと でてきて すっと消えちゃう
なんやら 変なことを いい残して
.....

もうれつに しんけんナンダヨ ボクは!
ほんとの 神さま ほんとの イエスさま
ほんとの マリアさま ほんとの ほとけさま
みんなと バチンと
出会いたいんだよ そしたら 死んでもいい
このまま なまごろしじゃ 死んでも死ねない

主よ 主よ どうしてわたしを見棄てられるのか?
と 叫んで死んだ キリスト・イエスの叫びが
地球が 裂けるほどに ひびいてくる
エリ エリ レマ サバクニタ

(奥村 一郎)

ヘンリ・ナーウエンの『旅路の糧』(66)

死すべき体は復活の種

私たちの死すべき体、肉と骨は、大地にもどります。『伝道の手帳(コヘレトの言葉)』の著者が、「すべては、一つのところに行く。すべては塵から成り、すべては塵にもどる」(伝 3:20)と言っているように。しかし、体をもって生きたことはすべて、私たちが神から新しい体をいただく復活の時に、栄光化されることでしょう。

復活の時、私たちはどのような体をいただくのでしょうか。パウロは、私たちの死すべき体を、復活の体の種とみなしています。「あなたが蒔くものは、新しい命が与えられる前に死ななくてはなりません。あなたが蒔くものは、あるべき体ではなく、麦であれ他の穀物であれ、ただの種粒です。神はそれにご自分の選ばれた一種の体を与え、一つひとつの種にそれぞれ固有の体を与えられます」(1 コリ 15:36-38)。私たちは、死すべき体の時と同じように、復活の時にもみな一人ひとりユニークであるでしょう。なぜなら、私たち一人ひとりの個性を愛する神は、私たちの神とのユニークな関係が栄光のうちに輝くような体を、私たちに与えてくれるでしょうから。

(1128)

人生は種を蒔く時

私たちの地上での短い人生は、種を蒔く時です。死者の復活がないならば、私たちが地上で生きるすべてのことは、無に帰します。人生のすべての喜びと苦しみは空しく、死すべき体と共に大地に消え失せてしまうなら、私たちが無条件に愛して下さっている神を、どのようにして信じることができるのでしょうか。というのも、神は私たちが永遠から永遠へと無条件に愛して下さり、私たちの体が、一その独り子であり私たちの救い主であるイエスがこの世に現れたと同じ体が、一決定的な滅びへと消え失せてしまうことを放っておくことはできないからです。

そうです。地上の人生は、復活の体の種が植えられる時なのです。パウロは、「蒔かれる時は朽ちるものでも、朽ちないものに復活し、蒔かれる時は卑しいものでも、輝かしいものに復活し、蒔かれる時には弱いものでも、力強いものに復活するのです。つまり、自然の命の体が蒔かれて、霊の体が復活するのです」(1 コリ 15:42-44)。私たちがこの体をもって生きるすべてのことが無駄にはならないという、このすばらしい認識は、すべての瞬間を永遠の種として生きるよう、私たちに招くのです。

(1129)

九里 彰訳

復活節第4主日

「神は彼らの目から涙をことごとくぬぐわれる」(黙示録7:17)

黙示録の7章に、白い衣をまとった人が神の玉座の前に立つとあります。彼らは大きな試練を経た人々であり、神は彼らの目から涙をことごとくぬぐわれます。今日私達が皆様に紹介したいのは、試練の中で自ら涙を流すのを止めた人のことです。

中村久子という両手両足を無くしながら、強くたくましく生きた女性がいました。生まれたときは五体満足だったのですが、3歳のとき足が突発性脱疽となりました。結婚して11年たってようやく生まれた子供だったので、両親は切斷せずに直るように病院や、新興宗教にすがり、借金をしながらあらゆる考えられる手段を講じました。その甲斐なく久子は両手両足をあいついでなくします。明治時代のことから、社会保障は何もありません。見世物小屋の人が、噂を聞いて娘を買いに来てても父親は断固として拒否し、どんなに貧しくてもこの子を興行師の手に渡すものかと言うのでした。不幸は続くもので久子が7歳のとき父親が急死します。当時の状況では、障害者の子供を抱えた未亡人が生きていくには再婚しかありません。嫁ぎ先で久子と共に肩身の狭い暮らしを始めました。久子の弟は孤児院に送らざるをえませんでした。さらに悪いことに久子が一時的に失明します。

この頃母親は親子心中を考え、久子を背負って何度も急流のほとりを歩いたそうです。どういう心の動きがあったかはよくわかりませんが、母親は涙を流すのをやめ生き抜いていこうと決心しました。幸い久子の目が半年後に治りました。この頃から、母親は鬼になり、久子を厳しくしつけます。不自由な手で針仕事をするように命じます。固い糸が切れないので切ってくださいというと、母親は自分で考えなさいといいます。マッチをする時も母に頼むと自分でしなさいといわれます。母親の厳しい教育によって、身の回りのことや家での仕事の一つまた一つとだんだんに自分でできるようになっていき、ほとんどのことが自由にできるようになりました。

その頃死んだ父の親友が見世物小屋で働かないかと言いに来ました。久子は熟慮の後自分が経済的に独立するにはこの道しかないと考えて、見世物小屋に出る決心をしました。そして22年間見世物芸人の生活をするようになります。

久子の母親がその後どういう風に暮らしたかは書かれていません。久子はあまりにも厳しかった母を恨んでいたそうです。弟が危篤の時には駆けつけたのに、母の葬儀には巡業先から帰郷しませんでした。久子が母親の愛を痛感したのは、自分も娘を持ち、大変な苦勞をしながら育てたことによってです。特に娘の運動会に出たときのうれしさによって、障害者の自分を育ててくれた母親の恩を涙ながらに悟ったそうです。しかしその時には母親はすでになくなっていました。

思えば久子が見世物小屋で生きていけたのも、母親の厳しい教育があったからです。母親が涙を流すのをやめ、生き抜いていこうと決心してくれたからです。中村久子のような偉大な霊魂が生まれるのには、母親の隠れた力があったのです。久子の母親もまた神の玉座の前に娘と一緒に立っていることでしょう。

参考：中村久子著「こころの手足」 春秋社

(新井)

復活節第5主日

「あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。私があなた方を愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」(ヨハネ13:34)

21歳のピーターが交通事故に遭い、脳に損傷を負って深い昏睡状態に陥りました。彼はリンダと結婚しようと考えていました。医者はまだ長くない、助かっても昏睡状態が続くだろうと言いました。長い悲しみの期間、リンダは使える時間をすべて病院で過ごしました。しかしピーターの昏睡は続き、彼女がいることにも気づきません。三ヶ月半、毎晩彼のそばにいて励ましの言葉をかけつづけました。しかし反応がありません。ある夜、リンダは彼の足の指が動いているのに気がつきました。これこそ彼女が求めていたものです。彼女は仕事をやめ、いつも彼のそばにすることにしました。ついにピーターがリンダの父親に彼女と結婚してよいかと尋ねることのできる日が来ました。リンダの父親は「歩けるようになったら娘を君にやろう」と答えました。2年たって、ピーターは歩行器を使って歩き始めました。そしてリンダと結婚できたのです。今では彼は普通の生活ができます。喋るのはゆっくりですが、意味は明瞭です。二人は幸せな家庭を築いています。

今日必要なものが一つあるとすれば、イエスが説いた種類の愛の強さを再発見することです。リンダとピーターの物語はこの種の愛が巨大な、不思議な力を持っていることを示しています。人々を死の危機から甦らせる力があります。人々を望みのない病から完全な健康に甦らせる力があります。リンダの愛がピーターに行なったように、世界中の人々を勇気づけ、新しい希望を与える力があります。

あるヒンズー教徒が、キリスト教の宣教師に「もしあなたたちキリスト教徒が、聖書が説く愛を本当に実践するならばインドを5年で回心させることができるでしょう」と言いました。キリスト者間の相互愛が福音の純粋性を非キリスト者に納得させる最もよい方法です。もし本当の愛徳があればうまく行っていたはずの何千もの壊れた家族が今日あります。家族と隣人がキリスト教的愛徳の義務を果たしていれば、入らなくてすんだはずの人が刑務所と病院に今日たくさんいます。現代社会への私たちの宣教は、イエスが教えた愛の力を見出す手助けをすることです。私たちはキリストに従っていますが、果たして私たちの何人がキリスト自身の課す、真に従っている者を決定する試練に耐えられるのでしょうか。愛徳という言葉は不幸なことに、現代の用法ではとても狭い意味になっています。施しをすること、困っている人に金を与えること、これは本当の愛徳の一部に過ぎません。今日、私たちの一人一人が、自分を省みて自分の思い、言葉、行いは、イエスが従う者に求めておられる思い、言葉行いと同一であるか比べてみるべきです。これは実り多いものとなるでしょう。

(Beatrice)

復活節第6主日

「私はあなたたちに平和を残す」(ヨハネ14:27)

キリストは私たちに平和を残されました。それはキリストが十字架と復活によって世の支配者である悪魔に打ち勝ったからです。キリストは全世界のために平和を与えましたが、小さな規模の平和を作った人はたくさんいました。イザヤ書の50章から53章には苦難の僕と呼ばれる謎の人物が描かれています。この人には歴史上の人物が当てはまるという説があり、その説によると平和を残した立派な人です。

苦難の僕はバビロン捕囚からユダヤ人が帰還した頃に生きた人です。ペルシャ帝国が覇権を握ったとき、バビロニア帝国が各地から連れてきた捕囚の人々を解放し、彼らの宗教の祭具を返し、神殿などを再建することを許可しました。その中にユダヤ人たちもいました。シェシュバツアルが苦難の僕であると考えられるのですが、エズラ記の1章によると彼はエルサレム神殿の祭具を受け取り、エルサレムに持ち帰った人物です。彼は「首長」と呼ばれています。彼は歴代誌上3:18に出るシェンアツアルと同一人物だと思われ、ダビデの家系に属する人物であり、ダビデ王朝復興の期待がかけられていたと想像できます。

ペルシャ帝国がこういう寛大な処置をとったのは、民族の自治と宗教の独自性がある程度認めるほうが帝国の統治に有利だと判断したからでした。一方でペルシャは道路と通信網を整備し、帝国の隅々まで支配しようと努めたのでした。

さてシェシュバツアルがエルサレムに戻ったとき、ユダヤ人はエルサレムとその周りの地域を保持しているだけであり、しかも周辺民族に脅かされる日々を送っていました。かつてユダヤ人が強力な王国を維持していたとき虐げていた民族が自分たちの権利を主張するようになっていたのです。こういう状態の中にダビデ王の血統の者が、ペルシャ帝国の権威を背景に持って指導者として到着したのですから、ユダヤ人の愛国心が高揚したのは想像に難くありません。彼は破壊されていた神殿の基礎を据えました(エズラ5:16)。これによって民族心はますます高揚したことでしょう。イスラエルの民は喜びと激情のゆえに、ペルシャが与える自治の枠と、居住者(周辺の異民族)の利害を忘れ、ペルシャが危険と考える政治的状态にまで至ったのだと思います。シェシュバツアルは海沿いの国々から指導者としての承認を求めたようです。我々の知ることのできない何らかの理由によって彼は捕えられ、正当な裁判も受けることなく殺されていきました。彼は民の代表として、民の罪をすべて自分で担い、それによって民を救ったのでした。彼の英雄的な犠牲によって帰還の民はエルサレムとその周辺に定着することを許されました。

彼の英雄的な行為は人々の心を打ち、イザヤ書の中で高らかに謳われることになりました。しかしそれは誰を指すのか明確に述べていません。なぜなら彼はペルシャ帝国にとり犯罪人として死んだのであり、ペルシャの支配はその後もずっと続いたから、はっきりそれとわかるようには書けなかったのです。そして時代が下るにつれ誰を指すのかわからなくなっていきました。そしてイエス様に全人類の罪を担う僕の姿のヒントを与えるに至りました。

この説は史料があまりにも不足しているので推測の域を出ていませんが、大変ロマンチックで魅力的な説だと思います。(新井)

昇天

イエスは従う者に、よい知らせを世界中に伝えることによってご自分の仕事を完成するようにお命じになる(ルカ 24 : 46 ~ 53)

今日の福音の中でイエスは天に昇られます。本当に使徒たちから、そして私たちから離れてしまわれたのでしょうか。イエスの仕事が終わったというわけではなく、昇天が彼の新しい存在の完成なのです。イエスは私たちに聖霊を送り、聖霊が私たちを導いてくれると約束なさったからです。昇天は弟子たちにとって始まりでした。彼らはがっかりしてその場を立ち去ったのではなく、大きな喜びを持って立ち去りました。いまや何者も彼らから引き離すことのできない主人を持っているとわかったからです。昇天は弟子たちに、彼らが地上だけでなく、天においても友人を持っているという確信を与えました。だから信仰を保つのに落胆すべきではありません。

キリストは苦しみを受けてから栄光に入ると書かれ、予言されていました。僕は主人にまさるものではありません。私たちはキリストに従う者ですから、日々の困難と試練を受け入れるべきです。病気、落胆、誤解、他人からの受容の不足などは日常生活の小さい十字架であり、神が私たちの真の幸せに関心があるしるしとして喜んで受け入れなければなりません。私たちはこの涙の谷を去り、永遠の祝日に入ります。キリストはこの聖なる遺産を私たちのために勝ち得てくださいました。地上の死をそうして恐れることができましょうか。

イエスは私たちに福音を宣べ伝える努めを与えられました。そして私たちを頼りにしておられます。2千年前に、イエスは彼の仕事を使徒に渡しました。使徒たちはまた、後に続く人々にそれを渡しました。今、私たちがそれを次の人々に渡す番です。このためには、イエスの教えを個人的な生活において生きていないと伝えることができません。イエスを世に伝え始める道は、自分の人生においてイエスを生き始めることです。これを始めるなら、イエスの使信はさざなみのように世に広がり始めます。もし十分な数のキリスト者がこうするなら、さざなみは大きな波となり、その波は夢にも思わなかった方法で地の面を変えることでしょう。

神に仕える静かな時が無駄になることは決してありません。なぜなら生活の務めを脇に置くとき、私たちは脇に置いたその務めのために強くされるからです。私たちには上から来る力が必要です。主の昇天を通して天国が実在すると確信します。そこにすべての苦しみに対する報いがあります。天国では栄光が私たちを待っています。

(Beatrice)

聖霊降臨の主日

「一同は聖霊に満たされ、霊が語らせるままに、他の国々の言葉で話し出した」

使徒言行録 2 : 1 ~ 11

聖霊降臨の日は教会の誕生日と呼ばれます。今日の福音の中で聖ヨハネはキリストが復活後初めて使徒たちに現れたとき、使徒たちが聖霊をすでに受けたと言っています。しかし聖霊降臨の日の聖霊の降下は、エルサレムの人々に印象づけ、驚かせるための公の現れという特別の出来事でした。聖霊降臨は使徒たちの宣教の幕開けのために選ばれた日です。彼らが聖霊という聖なる力に支えられていることが明らかになりました。この日からずっと、彼らは唯一の目的、すなわちよい知らせ、キリストの福音を世界に伝えるという目的に捧げられた人になりました。

これら英雄的な神の人と私たちの間には20世紀の隔たりがあります。しかし時代を通して教会にとどまっておられる聖霊のおかげで、彼らの仕事の真実が私たちと共にあります。現代の世代も寛大な人々、地上的利得よりも永遠の価値を優先する人たちを必要としています。今の教会には敵があり、多くの場所で教会は迫害されています。しかし恐れる必要はありません。聖霊の声は最初の聖霊降臨と同じように今も力強いものです。また聖霊は創造し、生命を与えます。真理の充満をもたらします。

今日の私たちにとって聖霊降臨は何であるべきでしょう。まず何よりもそれはシャロームをもたらすものです。イエスが高間で従う者たちに与えたあの平和です。キリストの使徒たちと私たちへの贈り物であるシャロームは、私たちの生活でのより大きな完成と、人間的可能性と能力の十全な発達を意味します。また喜びでもあります。これは贖われたキリスト者の際立ったしるしです。キリストは今日、シャローム、平和の賜物をくださいます。これは私たちが喜びの心で受け取り、答えるときのみキリストの望んだとおりの平和となります。

聖霊降臨の本質的意味は、人々の心の、また私たちの理解の欠如や人間関係、許せないでいること、悲観主義、希望の欠如などの変革です。この祝日が霊に進んで心を開く人すべてに与える再創造された精神と心を私たちは必要としています。聖霊降臨は今も、福音が宣べ伝えられるところではどこでも、また人々が一緒に暮らし祈っているところではどこでも今も進行中です。聖霊は私たちにこの真理を決して忘れさせないでしょう。なぜなら私たちが聖霊を所有しているのではなく、聖霊が私たちを所有しているからです。

(Beatrice)

《病者の塗油の秘跡》(1)

教会には、七つの秘跡がありますが、その一つに「病者の塗油の秘跡」というのがあります。この秘跡は、以前は、「終油の秘跡」と呼ばれ、この秘跡を受けると、もうすぐ死ぬのではないかと思われていました。たしかに、危篤になってから受けることが多かった秘跡でした。

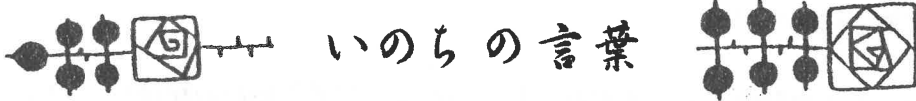
しかし、第二バチカン公会議において、『終油』は、むしろ『病者の塗油』ともいうべきもので、危篤の状態にある人のためだけの秘跡ではない。したがって、信者が病気や老齢のために死の危険にある場合、この秘跡を受けるに適した時が来ていることはたしかである」(典礼憲章 73)とっています。この決定を受けて教皇パウロ六世は、使徒憲章「サクラム・ウンクツィオネム・インフィルモールム(聖なる病者の塗油)」(1972年11月30日)を發布し、この秘跡の式次第の改訂を行い、現在のようになりしました。そこで、この秘跡について、どのような意味があるのか、どんな人が受けることができるのかを見ていきたいと思えます。

・意味

ヤコブの手紙が、この秘跡の意味について述べています。そこには、「あなたがたの中で病気の人は、教会の長老を招いて、主の名によってオリーブ油を塗り、祈ってもらいなさい。信仰に基づく祈りは、病人を救い、主がその人を起き上がらせてくださいます。その人が罪を犯したのであれば、主が赦してくださいます」(ヤコブ 5.14-15)とあります。

この秘跡の意味は大きく二つあり、一つは、病気やけがが癒され、健康が回復することを祈ることです。もう一つは、この秘跡によって、全免償が与えられるということです。また、この秘跡に加え、ゆるしの秘跡を受け、ご聖体を受けることも勧められています。このことからわかるように、身体の健康の回復と共に、心の健康の回復をも祈るものです。この秘跡によって、病気が奇跡的に回復することがありますが、それはあくまでも神様の恵みの結果にしかすぎません。つまり、この秘跡は、まじないや魔法のたぐいではないということです。このことを頭に入れておかなければ、本来のこの秘跡の意味が失われます。

この秘跡にとって大切となるのは、教会をあげてその人の健康回復を祈ることです。これは、「愛」の行いとなるものです。ですから、もし事情が許されるならば、司祭だけではなく、家族を含め何人かの人たちの祈りのうちに授けられることが望まれます。そうすることによって、よりこの秘跡の共同体性、教会性が明確となっていくでしょう。そして、教会をあげて祈る時、神様は、ある時には直接の癒しを行われるでしょうし、ある時には別の形でわたしたちの祈りを必ず、聞き入れてくださいます。まずは、わたしたちに関係のある人、また関係はなくても今、病気やけがで苦しんでいる人のために祈ることにしましょう。これが、この秘跡の大きな意義となります。



皆に仕える愛

あなたがたの中でいちばん偉い人は、
いちばん若い者のようになり、
上に立つ人は、仕える者のようになりなさい。(ルカ22・26)

ルカ福音書には、イエスの弟子たちが「一番偉い者はだれか」と論じ合う(*1)場面が、何度か出てきます。今回は、最後の晩餐の時、イエスがご聖体を制定された直後のことでした。ご聖体は、限界なしにご自分をお与えになるイエスの愛が示された最大のしるしです。また、数時間後の十字架上的の経験を取るものでもありました。イエスは「いわば給仕する者」(*2)として、弟子たちの間に身を置かれます。実際、ヨハネ福音書では、弟子たちの足を洗うというイエスの具体的な行為が語られています。このイエスの教えを思い起こすのは、復活祭を祝う私たちにとって大切なことでしょう。

弟子たちがイエスの教えを理解できなかったのは、名声や栄誉、上層階級に入ることや「一日置かれること」を好む、人間的な考えに左右されていたからです。しかしイエスが地上に来られたのは、まさに、愛という別の論理に基づく新たな社会・新たな共同体を築くためでした。

主であり、師でおられたイエスが、弟子たちの足を洗われたのです。(それは当時、奴隷だけがする仕事でした)。私たちもイエスに従うことを望むなら、そして責任ある立場についている場合は特に、イエスのように具体的、献身的に、隣人に仕えるように招かれています。

あなたがたの中でいちばん偉い人は、いちばん若い者のようになり、
上に立つ人は、仕える者のようになりなさい。

このみ言葉は、イエスの逆説の一つです。キリスト者の態度の特徴は、愛であると考えるときだけ、理解できることでしょう。この愛ゆえに、キリスト者は、一番末席につき、他の人の前で自らを小さくします。父親が、幼い子と遊んであげる時や、少し大きくなった子の学校の宿題を手伝ってあげる時にもこのようにするでしょう。

聖ビンセンチオ・ア・パウロは、貧しい人々のことを、「私のご主人」と呼び、そのような相手として彼らを愛し、仕えていました。貧しい人の中に、イエスを見ていたからです。また聖カミロ・レリス司祭は、身を低くして病気の人に寄り添い、傷を洗い、ベッドを整える時に、自分は「愛情深い母親が、病気の一人息子に抱くような愛をもって」行なうと書いています。

あなたがたの中でいちばん偉い人は、いちばん若い者のようになり、
上に立つ人は、仕える者のようにになりなさい。

私たちの時代では、カルカッタのマザー・テレサを思い出さずにはいられないでしょう。マザーは、何千という瀕死の人に寄り添い、“貧しい人の中でも最も貧しい人々”を前にして、自らを「無」にされました。

だれかを前にして「自ら小さな者となる」とは、相手の心の最も深いところに入るよう努め、相手の苦しみや関心事を自分のものとして分かち合うことを意味します。たとえ相手が人生のすべてと思っていることが、私たちには、取るに足りない、無意味なものに感じられる場合にもです。私たちが隣人よりも高いところにいるから、「自らを小さくする」ということではありません。気をつけていないと、私たちのエゴは、いつも大きくふくらんで表に出てこようとし、隣人よりも上に立とうとする傾向にあるからです。

あなたがたの中でいちばん偉い人は、いちばん若い者のようになり、
上に立つ人は、仕える者のようにになりなさい。

ですから、「相手になって」生きることです。私たちの生活は、自分の心配事や自分の物、自分の考えなどでいっぱいになっていますが、このように自分のことだけを考える生活はやめましょう。自分を忘れ、自分を後にして、兄弟に思いをかけることです。だれであっても兄弟と完全に一つになって、その重荷を共に分かち合い、相手の心が軽くなるよう助けてあげましょう。兄弟が悩みや心配事、苦しみや劣等感、ハンディキャップを乗り越え、自分自身から外に出て、神様や兄弟に向かって行くことができるようになります。こうして相手も共に、満ち満ちた生活と真の幸福を見出すことができるでしょう。

たとえば政治の分野で「上に立つ」人々も、どのような立場にあっても、自分が担っている責任を“愛の奉仕”として果たすことができるでしょう。このような愛は、結婚のために家や仕事が必要な若者たち、勉強のために学校や本が必要な学生、また会社経営のために、道路や鉄道、法律を必要とする人々を助けることができるでしょう。そして、家庭や学校、会社を通して社会に貢献しようとする人々の「愛」が花開く土台を築くでしょう。

私たちは、朝起きた時から夜寝る時まで、家でも職場でも、学校でも道でも、いつも仕えるチャンスが与えられています。また誰かに仕えてもらう時には、感謝するチャンスがあります。

どんな兄弟もおざりにせず、いつも自分から先に愛しながら、相手の中におられるイエスのために、すべてを行いましょ。

皆に仕えましょ！こうすることによってのみ、私たちは「偉い人」になれるのです。

キャラ・ルービック

*1 ルカ 9・46

*2 ルカ22・27

*フォコラーレセンター

〒168-0071 東京都杉並区高井戸西1-11-4

TEL.03-5370-6424 FAX.03-5370-3055

E-mail focolare@sa.uno.ne.jp

…ケリトの水にうるおされて…

カルメルの聖人たちの祈り

3. 聖シモン・ストック (13世紀)

聖シモン・ストックについては、13世紀に生きた英国人であるということ以外には、ほとんど知られていません。彼は、英国ケント州エイルズフォードのカルメル会修道院の院長をつとめていました。

1251年7月15日の夜、彼はヴィジョンを見ました。聖母が彼に現われ、言われたのです。「これは、あなたと全てのカルメル会員の特権となるものです。これを身にまどって死ぬ人は誰でも、永遠の炎の中で苦しむことはないでしょう」と。その時、彼は茶色のスカプラリオを与えられました。この時以来、カルメル会員はスカプラリオを身につけるようになりました。

聖シモン・ストックは、その聖性と聖母に対する信心のゆえに、カルメル会員たちに崇められています。13世紀半ば、シモン・ストックはボルドーの地で亡くなりました。



聖シモン・ストックにスカプラリオをお与えになる聖母

祈り

カルメルの花

——カルメル山の聖母への祈り——

カルメルの花、花咲くぶどうの樹。
天の国の輝き、母にしておとめ、たぐいなき方よ。

たぐいまれなる、いと優しき御母、
カルメルの子らにいつくしみを示してください、海の星よ。

エッセイの根から萌え出た力強い幹、輝かしい花を咲かせた方。
いつも私たちの近くにいてください。
ここであなたに仕える私たちを常にお守りください。

茨の中に咲き出でた、このうえなく清い百合、
弱さの中で、あなたを顧み、信頼を寄せる真心に
助けをお与えください。

いと強き盾、あなたの力に信頼します。
戦いに追い詰められても、
あなたのマントに覆われて、あなたを呼び求めます。

道は定かではなく、敵に囲まれています。
確かな知恵を、
あなたに頼る者たちにお与えください。

おお、優しき御母、カルメルの元后、
あなたに与えられ、今も持っておられる喜びを、
あなたに仕える者たちにもお分かちください。

めでたし、天の門、
栄光の冠を受けられた方。
御子がおられる安全な場へと、私たちを運んでください。
この方こそ、見るべき真の喜びなのでから。

(この祈りは聖シモン・ストックのものどされていますが、原作者は不詳です)

* * * * *

この記事は、跣足カルメル在俗者会員ベニー・ヒッキー氏が編集された Drink of the Stream: Prayers of Carmelites (Ignatius Press, San Francisco, U.S.A., ホームページ <http://www.ignatius.com>) の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

(注)タイトル中の「ケリトの水」とは、主が預言者エリヤに言われた、「ここを去り、東に向かい、ヨルダンの東にあるケリトの川のほとりに身を隠せ。その川の水を飲むがよい。わたしは鳥に命じて、そこであなたを養わせる(Ⅰ列 17:3-4)」ということばに由来しています。

(浜田裕子訳・編)

生きることの喜び

蛭田 幼一

五月の風が吹いている。暑くもなく、無論、寒くもなく。空は晴れているが、抜けるような青空でない。川辺には青々と草が茂っている。五月の風はいい風だ。小鳥のソプラノ独唱が聴こえてくる。喉を脹らませて、一所懸命だな。喜びだ、生きることは。老いがあり、病があり、死がある。到る所に人々の呻きがある。空は燃え、歌声の途絶える秋も来よう。だが天地万物の創造主よ、生きることは喜びだ。

Per ciascun tramonto
c'è un'alba
che illuminerà
il mattino;
così il Signore
ci guida
anche se non conosciamo
il suo amore divino.

Marco Maffezzoli



全ての夕暮れには
朝を明るくする
暁がある;
こうして主は
私達を導いてくれる、
私達はその神々しい愛を
知らなくとも。

マルコ・マッフエッツォーリ (浅野菜生子訳)

作者、訳者に関する情報は、当誌4月号に掲載

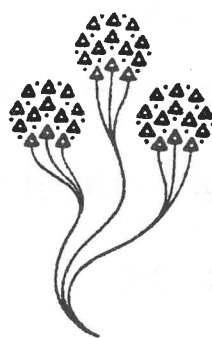
新刊紹介

K・リーゼンフーバー著

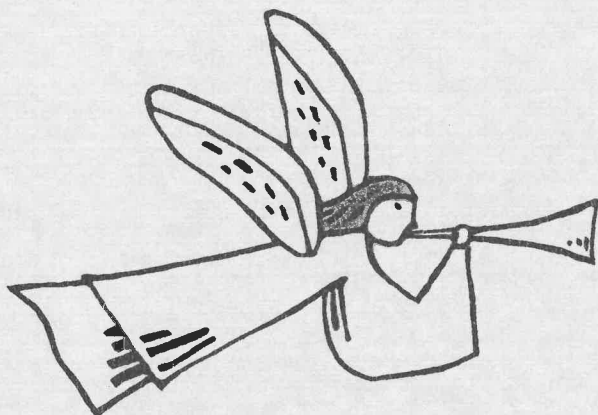
『超越に貫かれた人間——宗教哲学の基礎づけ——』

長崎純心レクチャーズ・第6回、創文社、2004年4月6日刊行、300
頁、2,500円

本書は宗教を人間の本質に根づき、その最高の発展を成している現象として捉え、宗教性の根拠と構造を人間論的に探究する。三つの講義から成る。①人間の尊厳と認識活動に含まれる超越との根本的關係。②聖書的信仰を背景に日常的諸経験（意義の発見・現実の承認・芸術的創造性・信頼・責任・時間における呼びかけ）に見られる萌芽的宗教性の形と内容。③宗教的行為の成立・特徴・諸形態（超越への傾聴・黙想・祈り・信仰）の展開——思想的伝統を視野に入れた現代的問題意識にもとづく包括的宗教哲学。



諸々の企画案内



ノートルダム・ド・ヴィ

風 の 家

スズランハウス

瞑想 の 家

三位一体の聖体宣教女会

真命山霊性交流センター

マリアの御心会

心のいほり、内観瞑想センター

リーゼンフバー講座

コングレガシオン・ド・ノートルダム修道院

聖心会黙想の家

京都教区聖書委員会（聖書深読）

諸所の企画についてのご紹介

ノートルダム・ド・ヴィ

場 所：〒177-0044 東京都練馬区上石神井4-32-35 Tel(03)3594-2247
Fax(03)3594-2254

* 祈りの集い・いのちの泉へ

カルメルの霊性に学びつつ、キリスト者としての霊性を養うための講話と沈黙の祈りで構成された集いです。

2004. 5月15日(土) 愛の生ける炎：聖霊に導かれて

6月5日(土) いのちのパン：聖体に養われて

講話：伊従信子・片山はるひ(ノートルダム・ド・ヴィ会員)

時間：午後2時から(プログラム、修了時間は日によって異なりますので
事前にお問い合わせ下さい)

* 問い合わせ・申し込み

Tel(03)3594-2247

(電話は夕方6時～夜9の間をお願いします)

Fax(03)3594-2254

(Fax送信は何時でも結構です)又は郵便で

風の家

指 導：井上 洋治 師(東京教区司祭)

〒169-0042 東京都新宿区西早稲田 3-17-23-903 TEL 03-3204-4453

山根 道公 機関誌『風』編集者

*新住所：〒700-0808 岡山市大和町1-11-17

Tel・FAX 086-227-5665 詳細はお電話でお尋ね下さい。

ズランハウス : 責任者・井口 貴志

女性のアルコール依存症、やせ症、摂食障害の経験者とその家族のためのウェルビーイングを研究開発実践する施設。

詳細については電話で問い合わせして下さい。

〒192-0041八王子市中野上町4-27-4 TEL 0426-28-3222

瞑想の家 東光庵

指 導：ヨハネ・ウマンス師(神言会)

*詳細は電話で問い合わせして下さい。

場 所：〒166-0004 東京都杉並区阿佐ヶ谷1-38-13 TEL 03-3336-0735

三位一体の聖体宣教女会 東京修道院

場所：〒189-0003東村山市久米川町1-17-5

TEL. 042-393-3181 FAX 042-393-2407

黙想会：2004年

「聖書で祈る」： 指導：雨宮 慧師（東京教区司祭）対象：一般信徒

2004, 2月21日（土）5:30pm～22（日）4:00pm 了

6月26日（土）5:30pm～27（日）4:00pm

11月27日（土）" 28（日）"

2005. 2月26日（土）" 27（日）"

祈りの集い：神が下さる私の道

対象：男・女青年信徒

2004, 2月8日（日）10:00am～4:00pm 了

6月5日（土）10:00am～4:00pm

11月20日（日）10:00am～4:00pm

2005, 2月8日（土）" "

黙想会：

*対象：一般信徒（お弁当持参）

2004, 2月9日（月）10:00am～4:00pm 了

6月4日（金）10:00am～4:00pm

11月19日（土）10:00am～4:00pm

2005, 2月4日（金）10:00am～4:00pm

年の黙想会： 指導：瀬戸勝介 師（イエズス会） *対象、修道女

2004, 8月16日（月）5:30pm～8月25日 朝食後解散

キリスト教講座 カトリックの教えを学びたい方

日時：毎週木曜日 10:00am～11:30am

十字架の使徒職の集い *対象：信徒

洗礼よる司祭職に生き、司祭のために祈る

期日：第1グループ 毎月第2金曜日（2:00Pm.～3:30Pm.）

第2グループ 毎月第1木曜日（2:00Pm.～3:30Pm.）

両グループ*司祭のために聖体礼拝を捧げます（1:30Pm～2:00Pm）

マリアの御心会

場 所：〒160-0012 東京都新宿区南元町6-2
JR信濃町駅下車徒歩2分

*問い合わせ・申し込み：TEL. 03-3351-0297 : FAX. 03-3353-8089

E-mail midorif@jpc.apc-org

「来て・見なさい」プログラム

結婚・修道生活・独身生活を選定したい方。

2004年度	テーマ	指導者
4/25 (日)	わたしはあなたを名で呼んだ (イザヤ43. 1)	竹内修一師
5/23 (日)	貧しい人の母、アデライド・シセ	サリ・A・タラベル師
6/27 (日)	霊操による祈り一日 (上石神委井黙想の家)	瀬本正之師
7/25 (日)	信徒の宣教	竹内燐太郎師
8/6 (日)	キリストの生き方とわたしの生き方 (長野県富士見高原黙想の家)	栄 隆一師
9/26 (日)	一致・交わり・共同体	松井紀直師
10/24 (日)	マリアの7つのことば	ヌエル・エルナンデス師
11/28 (日)	霊の識別	ティエリ・j・ロボアム師
12/19 (日)	星に導かれて	ジャン・クロード・ホレリッヒ師
2005年度		
1/23 (日)	聖体に現存するキリスト	森 一弘司教
2/20 (日)	わたしの内に、巣くう社会の歪み	下川雅嗣師
3/20 (日)	毎日の生活の中に神を探す	加藤信也師

『心のいほり』

内観瞑想センター』代表 藤原直達神父 (大阪教区司祭)

〒572-0001 大阪府寝屋川成田東町3-27

*TEL/FAX 072-802-5026 携帯 090-2401-9374

*活動内容。定期的に各地で内観黙想の同行指導と講演。日本的な瞑想法と、自己発見、癒しの方法としての内観瞑想の普及。同行司祭は藤原神父です。

*希望者は手紙かファックスで問い合わせてください。

電話では取り次いでおりません。

*2004.

5/9 (日) 4時~5/15 (土) 2時まで 京都・竜安寺

5/24 (月) 2時~5/29 (土) 2時まで 盛岡・白百合

6/2 (水) 2時~6/8 (火) 2時まで 横浜・戸塚

6/20 (日) 2時~6/26 (土) 2時まで 兵庫・宝塚売布

7/5 (月) 2時~7/11 (日) 2時まで 横浜・戸塚

7/18 (日) 2時~7/24 (土) 2時まで 沖縄・クララ修道院

聖心会裾野修道院ヴィラ・フジ (黙想の家)

〒410-1126 静岡県裾野市桃園 198

TEL: 055-992-2120

FAX: 055-992-2165

A. 個人指導の黙想会・・・(初日夕食6時より最終日の朝食まで)

(2-3日だけの参加も可能)

①2004年7月1日(木)～7月10日(土) Fr. イシドロ リバス (S.J.)

Fr. 村上芳隆 (O.F.M.) Sr.交野

②2004年9月1日(水)～9月10日(金) Fr.アロジオ カンガス (S.J.)

Sr.交野

B. 2泊3日の静修

2004年4月28日(水)午後5時～4月30日(金) 了

Fr.松本秀友(京都教区) Sr.交野

A,Bの申込先: 〒150-0012

東京都渋谷区広尾4-3-1 聖心会明けの星修道院

Sr.交野君子 Tel,Fax03-3409-1937

往復はがきに、住所、氏名、電話番号をお書きの上、何日の何食～何日の何食までと明記してください。

C.聖書による個人指導の黙想会

①2004年1月26日(月)～2月4日(水) Fr.松本秀友 Srs.吹田、長谷川 了

②2004年9月10日(金)～9月19日(日) 司祭、Srs.吹田、長谷川

③2005年1月24日(月)～2月2日(水) 司祭、Srs.吹田、長谷川

Cの申込先: 〒108-0072

東京都港区白金4-11-1 聖心会レターレ修道院

Sr.吹田 眞佐子 Tel 03-3446-1270

Fax. 03-3441-0454

〒455-0872

名古屋市港区西蟹田1833 聖心会名古屋修道院

Sr.長谷川和子 Tel 052-302-4385

Fax. 052-309-1670

D 一般黙想 テーマ：自分探し（2回シリーズ）

①2004年11月16日（火）（お弁当持参で、11時集合）～18日（木）昼食まで

Fr.近藤（心のともし火） Sr.長谷川

②2005年春に予定

Dの申込先：〒455-0872

名古屋市港区西蟹田1833 聖心会名古屋修道院

Sr.長谷川和子 Tel.052-302-3485

Fax052-309-1670

E 一般黙想 テーマ：小さな事から自分を変えよう。

——新カテキズムを学び祈ろう——

①2004年4月17日（土）11時半～4月18日（日）正午解散（昼食なし）

了

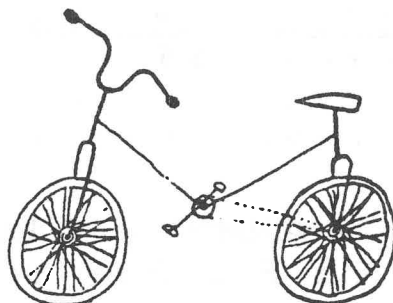
②2004年12月3日（金）11時半～12月4日（土）正午解散（昼食なし）

Eの申込先：〒248-0024

鎌倉市稲村ガ崎3の6の47

早川春日

葉書きで参加する月・日・住所・電話番号・名前を明記してください。



【一日黙想会のご案内】

テーマ：山上の説教

指導：森 一弘司教様

日時：5月23日（日）10：00～16：30 受付 9：30～

場所：コングレガシオン・ド・ノートルダム修道院

対象：男女・年齢を問わず、信徒・求道者の皆様

会費：2,000円（お弁当代を含む）

申込み：5月16日（日）まで。電話〔0424-82-2012〕 黙想会係

定員：80名

1日黙想会 テーマ「イエスのみ心を味わう」

日時：2004年6月6日（日） 10:00～16:00

場所：ノートルダム調布修道院

指導者：英 隆一朗神父（イエズス会） 対象：20代30代の未婚女性

参加費：1000円 持参品：聖書、筆記具

締切：6月5日（土）

コングレガシオン・ド・ノートルダム調布修道院

場所：東京都調布市下石原3-55-1

TEL：0424-82-2012

FAX：0424-82-2163

E-mail：mariaprovince@tokyo.email.ne.jp

担当：Sr.山本三千子 Sr.池田洋子

* 当道院は新宿より京王線で調布駅下車。南口から徒歩で20分。
タクシーで5分。下石原3丁目マルガリタ幼稚園と同じ敷地内です。

CWC (キリスト者婦人の集い)

講師：九里 彰 神父 (カルメル会)

テーマ：聖書に登場する女性の霊性

日程：2004,

5/11, 7/13, 9/28, 10/12, 12/14

時間：午前10:30～

会場：真生会館第一会議室

これまでのテーマは「アブラハムの2人の妻」「マルタとマリア」
「ベタニアの女」「サマリアの女」「マリアの受胎告知」でした。



坐禅会

月曜日：17時20分～20時10分

木曜日：18時～20時30分

場所：上智大学内クルトゥールハイム1階正面左の部屋

3回坐り、間に講話があります。

初心者も歓迎です。遅刻も不定期の参加も可。

接心 2004年度

関東

4月28日(水)20時30分～5月5日(水)14時

6月11日(金)20時30分～13日(日)14時

8月7日(土)20時30分～14日(土)14時

10月24日(金)20時30分～11月3日(水)14時

秋川神冥箱
1泊2400円程度

2005年2月26日(土)8時30分～27日(日)16時 上石神井5600円

関西 5月29日(土)13時～30日(日)16時 宝塚市②

7月31日(土)17時30分～8月6日(金)13時 宝塚市①

連絡先 ① シスター田中 電話 0727-59-3742

② 岸本 正 電話 078-583-3067

指導と問い合わせ先：

クラウス・リーゼンフーバー神父 (上智大学文学部教授)

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S.J.ハウス

電話 03-3238-5124(直通)、5111(伝言)、FAX 03-3238-5056



リーゼンフーバー講座・集い案内

2004～2005年

- キリスト教入門講座 金曜日 18時45分～20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館アルペホール
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。
- キリスト教理解講座 毎月第1・第3火曜日 18時45分～20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館アルペホール。
キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探究します。
- 聖書研究会 木曜日 12時40分～13時25分 上智大学7号館316号研究室
学生のどなたでも。新約聖書を1章ずつ読んで話し合います。
- 坐禅会 ●月曜日 17時20分～20時10分
●木曜日 18時～20時30分
上智大学内クルトウルハイム1階左の部屋 3回坐り、間に講話があります。
どなたでもどうぞ。初心者も歓迎です。遅刻、不定期の参加も可。
- 接心 ●4月28日(水)20時30分～5月5日(水)14時
6月11日(金)20時30分～13日(日)14時 } 秋川神冥窟
8月7日(土)20時30分～14日(土)14時 } 1泊2400円程度
10月29日(金)20時30分～11月3日(水)14時 }
2005年2月26日(土)8時30分～27日(日)16時 } 上石神井5400円
●5月29日(土)13時～30日(日)16時 }
7月31日(土)17時30分～8月6日(金)13時 } 宝塚市
- ミサ 水曜日 17時10分～18時 上智大学内クルトウルハイム1階右小聖堂
どなたでも。(8月を除く)
- 黙想 ●「会社帰りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時
聖イグナチオ教会マリア聖堂 どなたでも。
但し、8月には24日のみ(上智大学内クルトウルハイム聖堂)。
●水曜日 18時～18時30分 上智大学内クルトウルハイム1階右小聖堂
どなたでも。(8月を除く)
- 祈りの集い 下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内S.J.ハウス第5会議室
講話、黙想、ミサがあります。
4月17日、5月15日、6月26日、7月10日、8月21日、9月11日、10月16日、
11月13日、12月11日、2005年1月8日、2月19日、3月19日
- 黙想会 6月5日(土)10時～6日(日)15時、
9月18日(土)10時～20日(月)15時、11月27日(土)10時～28日(日)15時、
2005年3月5日(土)10時～6日(日)15時：1泊4400円程度
2004年8月22～29日、18時～21時 通う霊操(クルトウルハイム2階)
- アガペ会 説明会と集い 下記の日 13時30分～18時 20代～40代の信者
4月25日(日)、6月27日(日)：上智大学カトリックセンター
10月9日(土)、2005年1月22日(土)：S.J.ハウス第5会議室
- クリスマス会 12月18日(土)16時30分～ 上智会館5階第6会議室 要申し込み
ミサ 12月23日(火)14時～ 上智大学内クルトウルハイム聖堂
- 問い合わせ・連絡先 クラウス・リーゼンフーバー神父 (上智大学文学部哲学科教授)
〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S.J.ハウス
電話 03-3238-5124(直通)、5111(伝言)、FAX 03-3238-5056

黙想へのお誘い

メディテーション
「会社帰りの黙想」

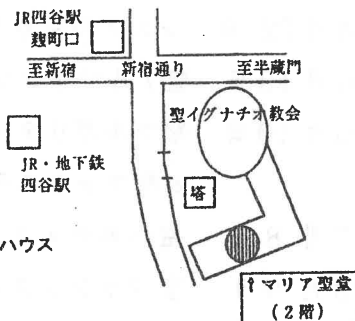
— あわただしい毎日に平安のオアシスを —

月2回、聖イグナチオ教会では黙想の場が開かれます。
リーゼンフーバー神父により、黙想のさまざまな仕方が紹介され、
参加者一人ひとりが沈黙のうちに聖書のことばをもとにし、自己を
探り、静かに考え、祈ることができます。始めと終わりにオルガン
演奏もあります。

信仰・宗派を問わず、毎日の忙しさから解放され、夕べのひと
ときに心を深めたい方、どなたも歓迎です。随時参加、遅刻可、参加
費無料です。初めて黙想なさる方も、お気軽にいらしてください。

日時：毎月第2・第4火曜日 18:45～20:00
但し、8月10日休み、8月24日上智大学内 Kultourlハイム聖堂
場所：聖イグナチオ教会マリア聖堂（中聖堂）
（東京都千代田区麹町6-5） Tel. 03-3263-4584
JR、地下鉄四ツ谷駅から徒歩

指導司祭プロフィール
クラウス・リーゼンフーバー (Klaus Riesenhuber) S.J.
1938年生まれ、1967年来日
イエズス会司祭、哲学・神学博士
元放送大学客員教授(1991年～1999年)
現在、上智大学文学部哲学科教授
連絡先：〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S.J.ハウス
Tel. 03(3238)5124(直通) / 5111(伝言)



真命山の靈性



陽の昇るところから
陽の沈むところまで **祈り**

静けさ 沈黙の中に神の
ままと同こう

信仰体験
を分かち **交わり**

2004年度のご案内

祈りの集い

テーマ 聖人の祈りに学ぶ

- 1月 8日 聖トマス・アクイナス
- 2月 12日 日本の殉教者
- 3月 11日 十字架の聖パウロ
- 4月 22日 シエナの聖カタリナ
- 5月 13日 聖アルフォンソ
- 6月 10日 聖マルガリタ・マリア
と聖ファウスティナ
- 7月 8日 聖ベネディクト
- 9月 9日 聖フランシスコ
サレシオ
- 10月 14日 アビラの聖テレジア
- 11月 11日 福者三位一体の
エリサベット
- 12月 9日 十字架の聖ヨハネ

黙想会

座禅と十字架の神秘

日時 3月26日(金) 17:00から
28日(日) 13:00まで

自然の中でキリストの復活を祝う

日時 4月23日(金) 17:00から
25日(日) 13:00まで

自然 神はすべてを造り、
人の手に委ねられ

10日間の黙想

日本の伝統文化に基づく靈性

日時 8月4日(水) 17:00から
12日(木) 13:00まで

研究会

キリスト者と他宗教との対話その真意

日時 4月30日(金) 17:00から
5月2日(日) 13:00まで

第6回 諸宗教平和の祈りの会

日時 2004年10月3日(日)
14:00~17:00

尚、個人、グループで黙想会、研修会など
ができますので、ご相談ください
宿泊は10名位迄可能です。

申し込み

〒 865-0133

熊本県玉名郡菊水町蜻浦 1391-7

真命山諸宗教対話・靈性交流センター

☎ 0968-85-3100; Fax 0968-85-3186

e-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

京都教区・聖書深読黙想会

2004 年度

翌日の日曜日の福音を、深く味わい、分かち合い、解説で学びながら、福音を深く心に刻む 聖書深読黙想会にお誘い合わせの上ご参加下さい。

- | | | | |
|-----|-----------|--------------|---|
| 1. | 1月31日(土) | 新井延和神父 | 了 |
| 2. | 2月28日(土) | 奥村 豊神父 | 了 |
| 3. | 4月17日(土) | 奥村一郎神父 | |
| 4. | 5月22日(土) | 新井延和神父 | |
| 5. | 6月12日(土) | 中川博道神父 | |
| 6. | 7月10日(土) | 新井延和神父 | |
| 7. | 9月18日(土) | ペテロ・バーケルマン神父 | |
| 8. | 10月9日(土) | 奥村一郎神父 | |
| 9. | 11月13日(土) | 新井延和神父 | |
| 11. | 12月9日(木) | 奥村 豊神父 | |

場 所： 河原町カトリック会館6階

費 用： 各回 2500円

時 間： 午前10:00～午後4:00

持参品： 聖書・筆記用具・ノート

申込・問合せ：〒604-8006 京都市中京区河原町通三条上ル
河原町カトリック会館内 聖書委員会
TEI：075-211-3484 FAX：075-211-3910

各回、お申し込みは3日前までに

主催： 京都教区聖書委員会

上野毛・宇治・大分

カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)

聖テレジア修道院 (黙想) はカルメルの霊性を体験し、深めたい方のためのものです。黙想会、練成会などにご利用ください。個人でも、グループでもご利用いただけます。お問い合わせ、お申し込みは、下記へお願いいたします。

158-0093

東京都世田谷区上野毛 2-14-25

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

東急大井町線 「上野毛」下車徒歩7分

611-0002

京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

TEL 0774-32-7016

FAX 0774-32-7457

京都駅から JR 奈良線 「六地藏」下車徒歩15分

バス停「町並」(京阪バス) から循環「御蔵山」^{おくらやま}に乗り「西住宅バス停」下車徒歩5分

870-1152

大分県大分市上宗方 1800-3

TEL 097-541-4012

FAX 097-541-4404

大分駅からバスで18分「^{あけがわらばし}明磧橋」下車、橋を渡りすぐ右折徒歩8分

男子跣足
カルメル修道会

お 願 い

投稿くださるときには、次のようにしていただくと幸いです。

1. 締め切り 毎月10日
2. 原稿サイズ：B5 左右の余白：最低15mm
3. 「心の泉」のコーナーについては、
随想、こぼれ話、書評等。「断想」、「陽あたり」等、小題をつけて。
4. 「諸所の企画」のコーナーについては、
①主催するグループ名もしくは個人名を明記。
②活動内容。例えば、「黙想会」、「祈りの集い」等。
③月間、あるいは年間の具体的計画。連絡先等。
4. 原稿が長い場合、編集段階で選択したり、数回に分けて掲載させていただくことがあります。また紙面の都合上、全体を打ち直し、詰めさせていただくこともあります。あらかじめご了承ください。
5. 寄稿連絡は、九里 彰神父宛にお願いいたします。
〒158-0093 世田谷区上野毛2-14-25 カルメル会修道院
Tel (03)3704-2171 Fax (03)3704-1764
6. 「霊性センター・ニュース」をより内容豊かなものとしてゆくために、これからも献金への協力をお願いいたします。

「霊性センターニュース」をご希望の方は、下記まで郵送ご希望の月数分×220円切手または現金を送ってください。これには、封筒代が含まれています。

佐々木茂子 〒230-0074 横浜市鶴見区北寺尾4-21-11

Tel (045) 575-5722

編集後記

先日、上野毛の教会学校の16人の子供たちが、初聖体のお恵みにあずかりました。ミサの最後に、一人ひとりが初聖体クラスで学んだことや印象に残ったことを絵と文で発表しました。小5の女の子の発表を紹介します。

「私は『羊かいのイエス様』の絵を書きました。このイエス様はにっこり笑っています。私は笑うことについて詩を書きました。その詩は『笑う』という題名です。

『笑うといやなことがとんでいっちゃう。

人が笑うと 私も笑いたくなる。

なんでだろう？

笑うことって ふしぎなおめぐみなんだな。』

これがその詩です。本当に笑うことって 不思議なおめぐみだと つくづくおもいます」。

(P.九里)

